

東日本大震災に関する人事課における業務の記録

平成 24 年 7 月

1. 人事課構成員

平成 23 年 3 月 11 日当時の人事課の構成員は、以下のとおり。

人事課長	若 生 克 義	人事課課長補佐	伊 藤 寿 隆
人事課係長	小 野 達 雄	人 事 課	平 山 修 子
人 事 課	山 田 純	人 事 課	佐 藤 純 基
人 事 課	尾 形 美 樹		

なお、尾形は育児休業を取得しており、当日の勤務者は 6 名であった。

2. 震災発生当日の人事課

(1) 3 月 11 日における人事課での主な業務

人事課では、当日の業務として人事課関連事項も含めて以下の業務を準備も含めて行なっていた。

①平成 23 年度 4 月 1 日人事異動者の発表

3 月 11 日は全学教授会が行なわれるなど、学内では多くの諸行事が行なわれた一日であった。この日は臨時部長会と臨時課長会が開催され、平成 23 年度 4 月 1 日人事異動者の発表があった。異動対象者が 20 名（昇任 2 名、異動・昇任 1 名、異動 11 名、新任 6 名）で、人事課では佐藤が施設課への異動となり、後任に新入職員の岩淵健太が配置されるという内容であった。

臨時部長会に続いて臨時課長会が午前 9 時 30 分より行なわれ、10 分ほどで戻ってきた人事課長より異動一覧（資料）をもとにした異動内容の説明がなされた。佐藤が異動となることがわかり、ベテランが抜けるということで人事課内では重い空気が流れた。

伊藤は、新入職員に 4 月からの配置を伝えるため、直後から電話連絡をとりはじめ、同僚となる岩淵だけが一度目の連絡ではつながらなかったものの、無事に午前中のうちに採用予定者への連絡を終えることができた。

なお、今回の人事異動の発表の結果が震災を誘発したといった風評が、至るところで出されていたという記憶が、複数の人事課員に残されている。

②3 月分月例給与確定に向けての諸準備

3 月の給与支給日は日程の関係から 18 日（金）であった。そして、翌週 14 日（月）が支給に関わる給与確定日（準備期限）にあっていた。そのため、給与係では平山と山田が給与確定までの作業に着手していた。

③退職者感謝の会開催に関するホテルとの打ち合わせ

平成 22 年度をもって退職される 23 名への辞令交付式を 3 月 31 日（木）に計画をしていた。会場は例年通り仙台ガーデンパレスを予約しており、詳細についての打ち合わせをするために、

午前 11 時にガーデンパレスの営業担当者を招いていた。佐藤が担当者としてプログラムや食事内容等について確認を兼ねながら交渉にあたっていた。

④人事制度構築に関するコンサルタント会社との打ち合わせ

当時、人事委員会で懸案となっていた人事制度構築に関し、(株)日本コンサルタントグループから、3月15日に制度構築にあたってのコンサルティングの説明を受けることになっていた。そのため、東京本社より担当者が来訪し、伊藤がその対応にあたった。打ち合わせは午後1時より約1時間行なわれた。打ち合わせが終わり、東京への帰宅の途についた担当者はJR仙台駅で震災に遭遇し、二日間仙台に足止めをされたと後に報告を受けた。その後、制度構築は一次凍結となった。

⑤平成23年度SD委員会の委員委嘱

平成22年度に発足したSD委員会の全活動が終了し、平成23年度に向けての検討課題を、『東北学院職員研修だより』第72号(平成23年3月8日発行)で全学への周知を終え、平成23年度の計画に取り組み始めた時期にあった。人事委員会では平成23年度委員会の委員構成の承認が済んでおり、委員を委嘱する候補者への電話での依頼を伊藤がこの日から開始していた。

⑥大学教職員組合との団体交渉とその準備

この日は大学組合との団体交渉が、午後7時30分より予定されていた。要求議題は、1) 職員の出向について、2) 休業期間の勤務時間について、3) 個人研究費の取り扱い要領について、の三点で、若生は議題に関連する資料を整理するなど、団交時に理事会構成員が使用する資料集の作成準備に取り掛かっていた。

(2) 震災発生時(3月11日14時46分)の人事課職員の様子

(1) 若生の記憶

育児休業中の尾形が、4月より勤務を再開することから、自宅に電話をして復帰についての確認等の打ち合わせを行なっている最中であった。

(2) 伊藤の記憶

本来、伊藤はこの日に春休み休暇を当てていたが、いくつかの業務が重なったため、振り替えて出勤としていた。その業務の一つにSD委員候補者への委員要請があった。午後になって各委員候補者への電話での依頼をはじめており、数名への交渉を終え震災発生時には図書情報課の佐藤恵職員と会話中であった。原田美由紀職員にSD委員を委嘱するためであったが、原田職員が年休中ということだったため、図書情報課の協力による職員育成に関わる方策について、提案されていたことでの意見を求めている。伊藤は激しい揺れで発する言葉を失ったが、揺れが続く中、佐藤職員が冷静な態度でいったん電話を切ることを伝えてきたことが印象に残った。

(3) 小野の記憶

パソコンを使つての業務の最中であった。人事課での小野のデスクは若生と並び、常に大量の書類が重ねて置かれ、極めて揺れに弱い状況にあった。小さな震度でも、たびたび雪崩状況を起こしている常習犯でもあった。しかし、小野は背後のロッカーに意識が及び、立ち上がってロッカーを

両手で支えたため、デスク上で何層にも重ねて小高い山となった書類は、当然のことながら滑りながら崩れ落ちた。次にデスク上のパソコン本体が大きな揺れで床に落下しそうになり、あわててそれを押さえるなど、完全に揺れに翻弄された。その後の小野の記憶では、庶務課の佐々木補佐が建物からの非難を呼びかけていたことを覚えている。

(4) 平山の記憶

平山は給与確定日を翌週の月曜日に控えていたことから、人事給与システムを使った仕事にあたり、パソコンを使ってシステム上で一度給与計算をかけている最中であった。平山のデスクの上にも日頃から書類が重なっており、机の上で書類の山が崩れている。その後は、他の職員と同様に避難行動に移っている。

(5) 山田の記憶

山田はこの日に給与明細票の仮刷りを行なう予定を組んでいた。現在は給与明細票の様式を変更したために、その業務は行っていないが、当時は1号館の情報システム課にある専用の印刷汎用機を使って給与明細票を印刷していた。記載内容の確認用として本刷り前に仮刷りとして印刷していたが、ちょうど機械を稼動して印刷中であったが、揺れが大きくなり印刷の途中で機械は止まってしまった。